

部活動の地域移行について

視察先 岐阜県下呂市
令和6年8月19日

人口	29,022人
面積	851.21km ³
小学校	9校
中学校	6校



1, 小諸市の課題・視察目的 (1) 小諸市の現状と課題

令和5年度の総務文教委員会行政視察報告から、執行部に対して「部活動の地域移行への取り組み」を提言している。本市での地域移行については、関係者へのアンケートを実施し、今後検討を進めていく段階となることから、より具体的に議論を前進させる必要がある。

(2) 視察の目的とねらい

下呂市では、部活動の地域移行に関するスポーツ庁からの通知以前から部活動のあり方について検討しており、市内中学校の合同部活の実施や、市内全6中学校の休日の部活動を地域移行するなどの先進的な取り組みを参考にしたい。



2, 視察の内容・概要・取り組み

R6部活動地域移行のスタイル

平日：勤務時間の中で、学校で、先生が
休日：原則拠点校で、地域クラブ指導員が

- ＜地域クラブ指導員は、教育委員会が任命＞
- ・地域の、やりがいを感じている社会人
 - ・小中学校の、やりがいを感じている教職員

月 火 水 木 金

**平日は部活動
16:30まで**

土 日

**休日は
地域クラブ活動**

部活動ガイドラインに沿った活動

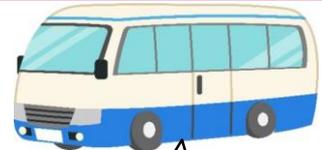
平日：2時間以内4日以内 休日：3時間以内土日どちらかは休む

その他の活動はスポーツ・文化クラブとして(任意で)

支援体制(補助金と移動手段の確保)

<部活動にかかる市からの補助の継続と充実>

- ◆部活動育成補助 一人2,000円の補助
- ◆部活動遠征補助金 中体連主催大会全額補助 中体連以外1回半額補助
- ◆保険(日本体育・学校健康センター災害給付) 半額480円補助
- ◆地域クラブにかかる移動費



スクールバスの台数
市11台、民間7台

スクールバスなど年間 R5 : 1,920,000円 → **R6:3,920,000円**

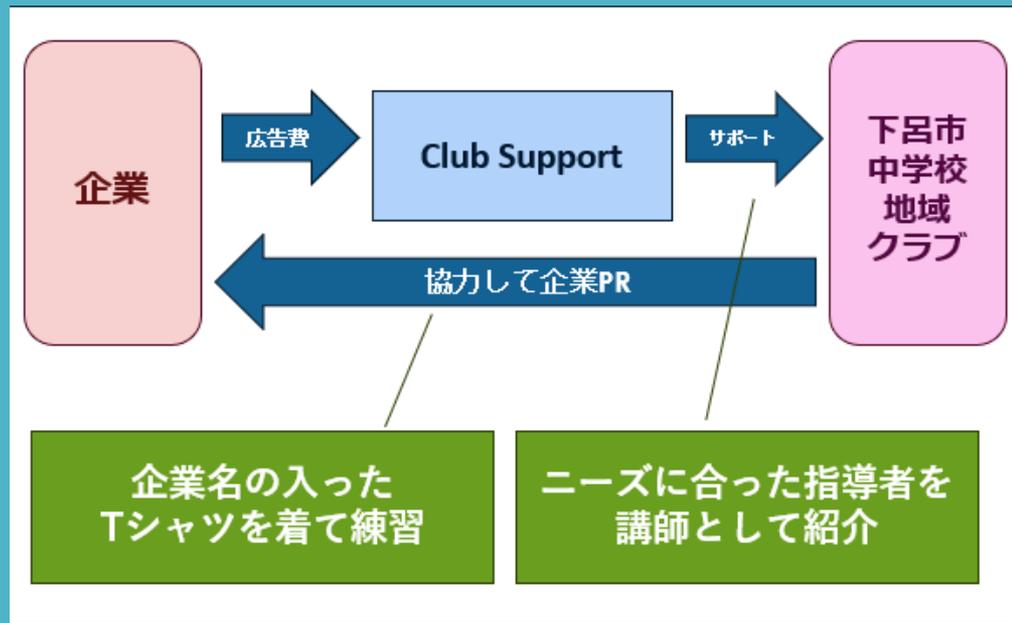
※(月4回の稼働×12月 + 夏休み平日10回分) + α

合同部活動	野球	バスケ 男子 女子		バレー 男子 女子		剣道 男女	陸上 競技	吹奏楽	テニス 男子 女子	
	A中 B中 C中	A中 B中 C中	A中 B中 C中	A中 B中 D中	D中 E中	A中 B中 D中 E中	A中 B中 C中 D中 E中 F中	A中 B中	D中 F中	D中 F中
	D中 E中 F中	D中 E中	D中 E中 F中					D中 F中	B中 C中	B中 C中
単独部活動	バレー 女子		卓球 男女		テニス 男子 女子		バスケ 男子	美術	文化	
	A中	B中	A中	B中	A中	A中	F中	D中	C中	
	C中	F中	D中	E中						

・自校にはない部活動に参加している学校 **赤字の学校**

※平日は他の部活動に参加又はトレーニング部に参加・指導者学校数+1名

スポンサ連携協定



3, 参考となった事項・提案等

参考となった下呂市の休日の地域移行

- ・部活動→地域クラブへ
- ・指導者の確保
- ・支援体制(補助金と移動手段の確保)
- ・運営方法の構築
- ・スポンサーとの連携



小諸市に提案

- ・生徒、教職員、保護者からのアンケートや聞き取り等から調査し、現状をしっかりと把握し、小諸市の部活動の課題に洗い出しを行う必要がある。
- ・休日部活動の指導者は中学校教員その他、小学校教員の部活動兼務者、地域の方等、誰がどの競技の部活指導を行えるのかを把握する必要がある。
- ・教育委員会を中心に部活動地移行推進組織を立ち上げ、推進委員や指導者の育成を行い、スポーツ協会・クラブ団体・企業などと先ずは交流連携を図り、生徒達のためにサポート体制を確立することが急務である。
- ・生徒の部活動のニーズを把握し、合同部活を行う場合には移動手段の整備が重要。スクールバスの運用を小諸市も可能にしたい。
- ・地域クラブ指導者への謝金及び部活動大会参加費、保険、移動費等の補助金の予算確保は国や県の補助金も使って行っていきたい。
- ・平日の部活動のあり方と保護者会の協力体制も考える必要がある。

飛驒市学園構想について

視察先 岐阜県飛驒市
令和6年8月20日

市立5園、私立3園（492人）
小学校は6校・中学校3校
（児童生徒数1461人）

人口 21,877人 高齢化率40,42%
市の面積 792,53km³



1. 小諸市の課題・視察目的

(1) 小諸市の現状と課題

「小諸市教育振興基本計画」は、令和6年度から3期目の計画となり、現在実施している施策に加え、今後4年間のうちに新たに組み込んでいく施策も必要であることから、他市の事例を参考にしながら、より良い計画の推進を！

(2) 視察の目的とねらい

飛驒市教育委員会が進める地域教育魅力化プロジェクト（飛驒市学園構想）は、社会総がかり（保・小・中・高・特支・家庭・地域・企業・行政）で、予測困難な時代を生きる子どもたちに「幸せな人生と持続可能な社会の創り手となる力」を育てている。本市の教育活動においても、その背景や取組を参考に、今後、小諸市独自の実現したい未来像を確立してほしい。

2, 視察の内容・概要・取り組み

飛騨市学園構想のこれまで(2019~2022)

飛騨市学園構想ビジョン検討委員会を設置後、3つの重点に沿った取組の推進！

プロジェクト1 保小中高特15年間をつなぐ課題解決型学習の実施

- ・地域とともに古川やんちゃ学(古川小学校)
- ・「神岡FIELD学」の探Q活動(神岡中学校)
- ・殿町青龍会さんとの繋がり(飛騨吉城特別支援学校)
- ・古川中マイ・プロジェクト(古川中学校)
- ・ESD地域課題研究(吉城高校)



プロジェクト2 コミスクや地域学校協働活動の実施

- ・ひだっ子キャンプスクール(神岡小・中学校)
- ・地域の中で遊ぶ(河合小学校)
- ・山っこブランド販売会(山之村小・中学校)



プロジェクト3 園・学校・校種間交流の実施

- ・保小架け橋プログラム(さくら保育園・古川西小学校)
- ・写真を通じた異年齢交流(宮川小学校)
- ・小学校へロボット教室(飛騨神岡高校)



飛騨市学園ビジョン / 飛騨市で育つ子どもたちにつけたい力

【目指す未来の創り手像】 志を語り合い しなやかに 挑み続ける 飛騨びと

Project 3



誇りと愛情

挑戦・試行錯誤

実社会の場と人々

多様性・多面性

様々な場所 多様な人

主体性・協働

気付き・発見

住んでいる地域と人々

豊かな体験・遊び

身近な場所や人々

Project 2 【創りたい地域像】 みんなで育て みんなが育つ 魅力あるまち

みんな関わる

飛騒市学園構想のこれから 令和5年度～令和7年度

2019年に策定された飛騒市学園ビジョンは様々な取り組みを経て、より具体的にイメージが描かれるようになってきました。「みんなで育てみんなが育つ魅力あるまち」の姿とは？この言葉の奥にある具体的なイメージを4領域と13の目標に分けて表現しました。

2022年8月28日に開催された、まなびみらい会議の参加者による「目指すまちの未来像」のアイデアを元に、未来の姿を描きました。

1 ワクワクする！教科学習

子どもたちは国語や数学、美術など教科で学ぶことが自分の日常や人生に活きるんだという実感を持っている



2 社会とつながる探究学習

興味関心を深めたり、課題を解決する学びが体系的に行われていて、教員と地域の人が共に学びの場を創造している



3 データで効果検証

子どもたちの成長について、主観的な考えとともに客観的なデータを活用し、地域と学校がともに取り組みを改善している

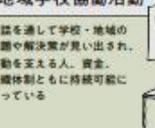


8 夢を生み出す地域クラブ活動

部活動の地域クラブ化により、子どもたちの可能性を広げる多様な持続可能な地域クラブ活動が行われている

9 対話にあふれた地域学校協働活動

対話を通して学校・地域の課題や解決策が見い出され、活動を支える人、資金、組織体制ともに持続可能になっている



4 学校はみんなの居場所

地域の人が気軽に集える居場所があり、子どもたちについての語り合いや、子どもとの対話を楽しむ真剣に行われている



5 気付き・発見が自然と語られる食卓

学校で何を学びどう感じたかや、職場での出来事や感じたことなどが日常的に話されている



6 子育て安心何でも話せる場所

子育てや、しつけについて子どもだけじゃなく話し合ったりする場があり安心して子育てができています



7 「考える」「やってみる」を楽しむ家庭

親が子に教えるだけでなく、一緒に「なぜだろう?」と考える時間が日常的にある



みんなで育て みんなが育つ 魅力あるまち

領域3

子どもたちの多様な興味関心を呼び起こし受け止める地域

10 飛騒から誕生！学生起業家

子どもの「やりたい!」が歓迎され、あらゆる知識や資源の提供がスムーズに行われ、思いが形になっている



11 学びに卒業なんてない！市民カレッジ

一定の講師から学べたり、やりたいことが体験できると、多様な学びの選択肢があり、生涯通じて学び続ける喜びを感じられている



領域4

大人も子どもも面白がって遊びチャレンジが多発している地域

12 世代を超えた学び合い

大人も子どもも世代を超えて集える場があり、語り合い、学び合う姿が各地で見られている



13 学ぶ楽しさ共有！探究フェス

心から面白いと思える学びやチャレンジを、地域内で共有し合い、学ぶ楽しさが広がっている

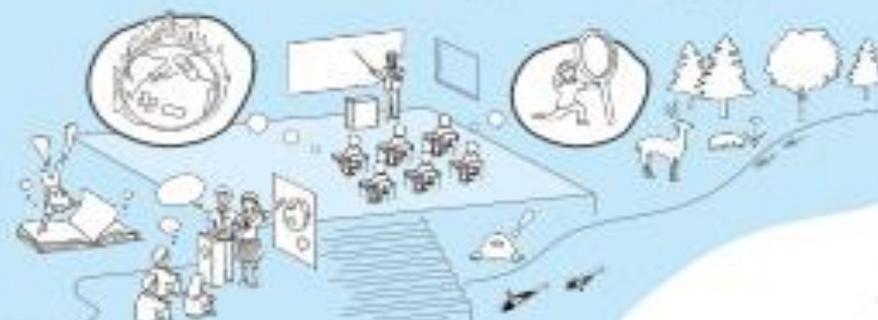


飛騨市学園構想のこれから 令和5年度～令和7年度

2019年に策定された飛騨市学園ビジョンは様々な取り組みを経て、より具体的にイメージが描かれるようになってきました。「みんなで育てみんなが育つ魅力あるまち」の姿とは？この言葉の奥にある具体的なイメージを4領域と13の目標に分け表現しました。

1 ワクワクする！教科学習

子どもたちは国語や数学、美術など教科で学ぶことが自分の日常や人生に活かせるんだという実感を得ている



2 社会とつながる探究学習

興味関心を深めたり、課題を解決する学びが体系的に行われていて、教員と地域の人が共に学びの場を創造している



3 データで効果検証

子どもたちの成長について、主観的な数値とともに客観的なデータを活用し、地域と学校がともに取り組みを改善している



領域1

子どもたちが
興味関心を起点に教科で
学んだことを活かし面白がって
「探究」している学校

4 学校はみんなの居場所

地域の人が気軽に集える空間があり、子どもたちについての語り合いや、子どもとの対話が楽しく真剣に行われている



みんなで育て

5 気付き・発見が 自然と語られる食卓

学校で何を学びどう感じたかや、
職場での出来事や感じたことなど
が日常的に対話されている



6 子育て安心 何でも話せる場所

子育てや、しつけについて
学んだり悩みを話し合ったり
する場があり安心して子育て
ができています



領域 2 親子ともに 学ぶ面白さを 感じられている家庭

7 「考える」「やってみる」を 楽しむ家庭

親が子に教えるだけでなく、
一緒にやって「なぜだろう?」と
考える時間が日常的にある



みんなが育つ

魅力あ

8 夢中を生み出す 地域クラブ活動

部活動の地域クラブ化により、子どもたちの可能性を広げる多様な持続可能な地域クラブ活動が行われている

9 対話にあふれた 地域学校協働活動

対話を通して学校・地域の課題や解決策が見い出され、活動を支える人、資金、組織体制ともに持続可能になっている

領域 3

子どもたちの 多様な興味関心を呼び起こし 受け止める地域

10 飛騨から誕生！ 学生起業家

子どもの「やりたい！」が歓迎され、あらゆる知識や資源の提供がスムーズに行われ、思いが形になっている

るまち

12 世代を超えた
学び合い

大人も子どもも世代を
超えて集える場があり、
語り合い、学び合う姿が
各地で見られている

領域 4

大人も子どもも面白がって遊び
チャレンジが多発している地域

11 学びに卒業なんてない!
市民カレッジ

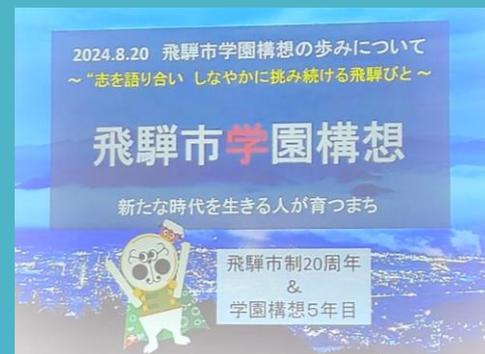
一定の講師から学べたり、やりたいこと
が体験できるなど、多様な学びの選択
があり、生涯通じて学び続ける喜び
を感じられている

13 学ぶ楽しさ共有!
探究フェス

心から面白いと思える学びや
チャレンジを、地域内で共有し合い、
学ぶ楽しさが広がっている

3, 参考となった事項と提案等

- ・各園・学校や地域の特色を生かしながら、地域や地域人材を学びのフィールドに、保育時期から高校までの15年間という長いスパンのカリキュラムを実施。
- ・コミュニティスクール(コミスク)の導入により学校運営に地域の声を積極的に生かし特色ある学校づくりを推進。
- ・コミスクと地域学校協働本部の連携により、より多くの地域の皆さんが子どもたちの成長を支える活動に参画するための基盤を整備。



提案

- ・系統性・連続性を踏まえた小諸市独自の課題解決型プログラムとして、保小中高特15年間をつないで力を育むことができるカリキュラムの作成と実施。
- ・小諸市の学校再編計画に合わせ、地域と学校が一体となって特色ある学校づくりや様々な課題を支援するために、コミスク(学校運営協議会を導入した学校)を導入。
- ・地域学校協働の活動が充実するために、学校と地域住民や保護者をつなぐ地域学校協働本部の設置と地域学校協働活動推進委員の確保。
- ・小諸市全体の教育向上のため、市内小中学校と保育園・幼稚園・養護学校・高校、更には県立や私立の高校等とも校種を超えて交流する(校種間交流)必要がある。
- ・ICT環境の整備とともに、Web会議システムを構築し、市内学校間の交流を実施。

「ヒダスケ」について

視察先 岐阜県飛騨市
令和6年8月20日

1, 小諸市の課題・視察目的

(1) 小諸市の現状と課題

人口社会増が続いている小諸市であるが、高齢化率33%を超えている現状。自治活動、農業就労の人手不足が続いている。他市の事例を参考に取り入れる必要がある。

(2) 視察の目的とねらい

飛騨市は、人口21,828人、高齢化率40.42%、全国の倍のスピードで人口減少する過疎地域でありながら、ふるさと納税からファンづくりを強化し、観光以上移住未満の「関係人口」増し、地域課題を解決する関係案内所「ヒダスケ」を展開している、多様な事業に関わってもらう「お互いさま」のまちづくりを、本市の取り組みの参考にしたい。

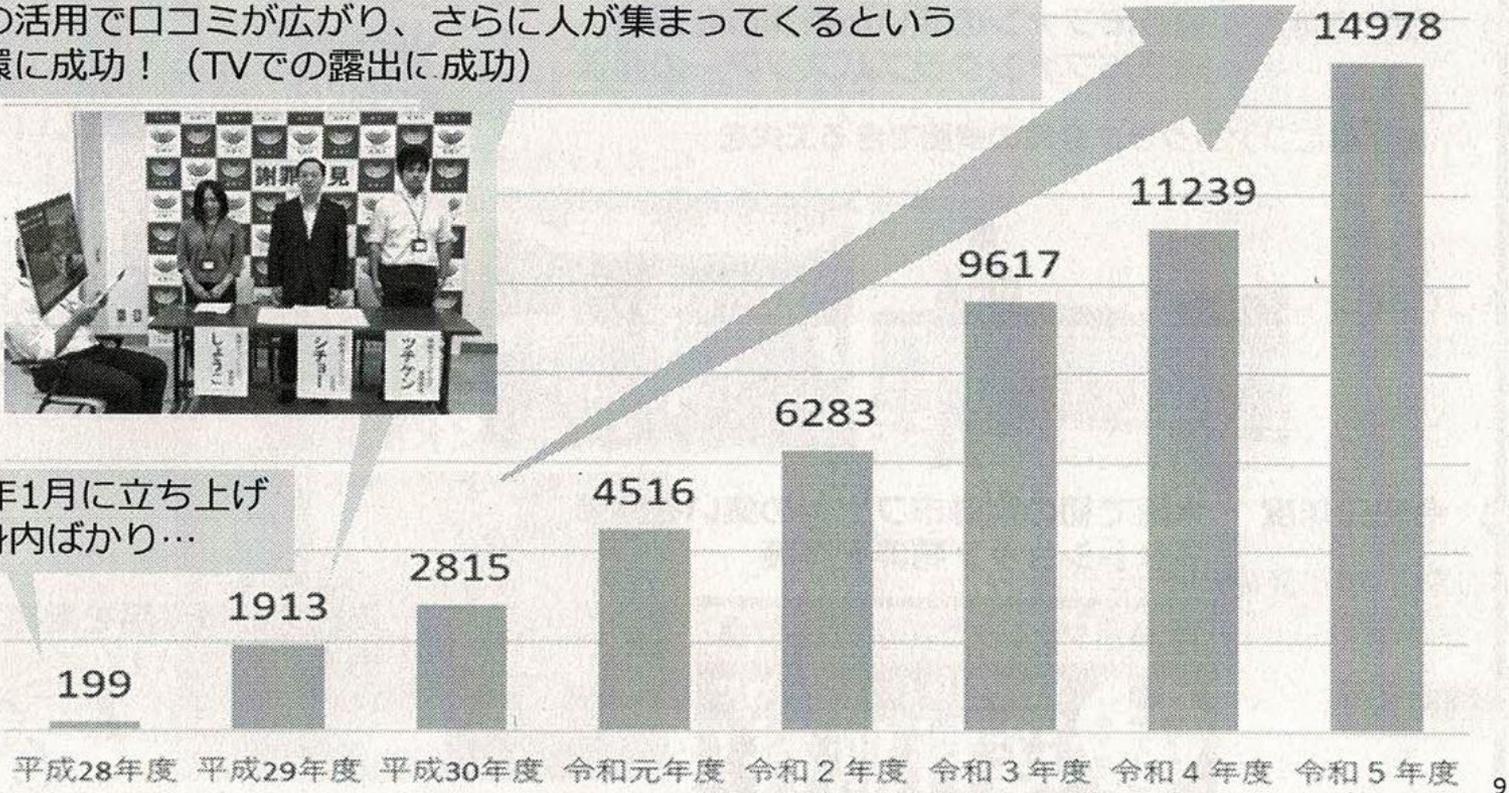
2, 視察の内容・概要・取り組み

SNSを活用したPRが奏功！

SNSの活用で口コミが広がり、さらに人が集まってくるという好循環に成功！（TVでの露出に成功）



平成29年1月に立ち上げ
会員は身内ばかり…



平成29年1月に立ち上げたファンクラブ会員は身内ばかりの199名だった。翌年SNSの活用で口コミが広がり、さらに人が集まってくるという好循環に成功！特典①オリジナル会員証②本人氏名入り名刺③名刺利用数によりお礼の品④宿泊特典（電子地域通貨さるぼぼ2000円分）⑤おもてなしクーポン（総額1500円の割引クーポン）⑥オンラインショップ利用

飛騨市ファンクラブ入会方法

印刷用ページを表示

ファンクラブ活動を定期的
に実施する中、「飛騨市の役に
立ちたい」という声もあり、
ファンクラブの会員が、
運営側に参画できる工夫を
した。

入会費・年会費 無料!

飛騨市ファンクラブ 会員大募集中!

飛騨市ファンクラブ
オンラインショップを運営中!
飛騨市のうんまいを
取り扱っています!

ご入会はこちらから!
WEBサイト 入会フォーム

飛騨市ファンクラブとは?
飛騨市に心を寄せてくださる方と、つながり、笑い、語り、
飛騨市をさらに楽しむコミュニティです。
全国の皆さんと飛騨市がお友達のような関係になれるよう取り組んでいます。

様々な関係性・つながりのきっかけをつくる『関係案内所』を設置。
地域資源の活用、市内からの課題を吸い上げ、プログラム化。地域外人材とのマッチングする。

26



現在のヒタスケ1人数 **3956** 名 (2024年9月時点)

最新情報のチェック
市役所ではLINEから



ひと計画いませ!

ボランティア?

体験ツアー?

地域の人と体験でつながり、「オカエッ」がもらえる。
南信州をもっと楽しむための「参加型プログラム」です。



プログラム一覧



ホームページ上の「ヒダスケ」にプログラムを掲載する → 全国の参加希望ヒダスケさんはプログラムから好きなものを選んで、Lineで申し込む仕組み、敷居が低い。



土日祝の開催がメインである。農作業繁忙期やイベント開催の多い時期には、プログラム数は増加する。平均参加者数6人。一人でも、参加してくれたら嬉しいな！というスタンスで行っている。



リピート率31%・プログラムマッチング率92.3%、
ヒダスケさん属性岐阜県内65.1%東海14%関東12.2%北陸甲信越5.5%

ヒダスケ！による地域の変化



- ・ 地域内外での往来・助けあい
が生まれ、「お互いさま」の精
神で地域の人々がエリアを超
えて助け合う土壌が育まれて
いる。
- ・ 交流によって改めて活動に力
が入ったり、新たな商品化に
チャレンジする動きが生まれ
ている。
- ・ 少しずつ賑わいが生まれ、地
域の魅力を維持する原動力に
なっている。

ヒダスケ！を活用した移住者の変化

移住者が地域の方とつながる仕組みとしても機能。

よくある移住者の悩み



地域のことが分からない。
知り合いがいない。
相談相手がいない。

ヒダスケ！へ繋ぐ
ヒダスケ！から繋がる

少人数での開催。又シ以外に
も市民の参加もある。
オタスケを通じて自然とコミ
ュニケーションが生まれる。



地域内での孤立やトラブル・
転出の一因にもなる可能性も・・・

ヒダスケ！をきっかけに
かかわりを構築

1～2年関わる中で、移住者は
独自にコミュニティを作り地域
に馴染んでいって行くケースが
みられる。



3, 参考となった事項・提案等

- ・ふるさと納税から、関係人口・交流人口を増やすことは、小諸市でも今後取り組んでいける視点であると思う。
- ・関係人口事業の発展として、「人交密度」を高め、多くの人と関わるまちづくり(嬉しい・楽しい・面白い)を追求する活動を展開する、その先には、移住定住者、増加に繋がやもしれない。
- ・ふるさと納税返礼品では、飛騨牛のように、全国に知られる名産品が小諸市にもほしい。できればどの年代にも好まれる品目が好ましい。小諸市を知っていただくきっかけになる。
- ・飛騨市はファンクラブの会員に「アンケート調査」をして研究し結果を分析している。小諸市も現在の移住者を対象に動向調査・分析し、新たな戦略を構築して行ってはどうか。
- ・「お互いさま」の精神を学んだ。飛騨市は地域外から参加者を募っているが、市内でもこの様な取り組みは出来ると思う。また、見守りや声掛けなどの日常的な交流に繋がれば、孤立や引きこもりの回避、虐待を防ぐことに繋がるのではないか。